



INTERNATIONAL
CORAL REEF INITIATIVE

サンゴ礁のために 行動を! Call to Action!



ICRIとは

国際サンゴ礁イニシアティブ(ICRI)は、日本、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ジャマイカ、スウェーデン、フィリピン、フランスの8ヶ国によって1994年に開始された、サンゴ礁を中心に、関連する生態系(マングローブや海草藻場)の衰退に歯止めをかけ、保全を推進することを目的とした国際協力のネットワークです。

特徴

ICRIは、世界中でサンゴ礁の保全に取り組んでいる各国政府、国際機関、非政府組織、研究者などの代表者によって構成されており、年1~2回、代表者が集まってサンゴ礁保全の課題を共有し方向性を決める総会を開催しています。総会では、形式的な合意よりも、関係者による実質的な協力の促進に重きを置いていて、全ての代表者が対等な立場で発言することができます。代表者は、総会で決定したことを各国や各機関に持ち帰りそれぞれの取組に反映します。そして、その成果や新たに発生した課題は、次の総会に持ち寄ってさらに議論を行っています。

ICRIの運営

ICRIは、特定の方向性に偏ったり、自由な意見交換が妨げられたりしないように、常設の事務局を持たずに、参加国の持ち回りで運営されています。これまで、アメリカ、オーストラリア、フランス、スウェーデンとフィリピン(共同)、イギリスとセイシェル(共同)が事務局を担当しました。2005年7月から2007年6月までの2年間は日本とパラオが共同で事務局を担当し、2007年7月からは、アメリカとメキシコが引き継ぎます。

「行動の呼びかけ」と「行動の枠組」

1995年にフィリピンで開催されたICRIの最初の国際ワークショップにおいて、サンゴ礁の重要性とその危機についての意識を喚起し、関係者が協力して保全に取り組むことを呼びかけた「行動の呼びかけ(Call to Action)」とそれを実現するための行動指針を示した「行動の枠組(Framework for Action)」が採択されました。

沿岸マネージメント

国際熱帯海洋生態系管理シンポジウム(ITMEMS)を4年に1度開催して、総合的な沿岸の保全・管理の課題や方向性を見出しています。



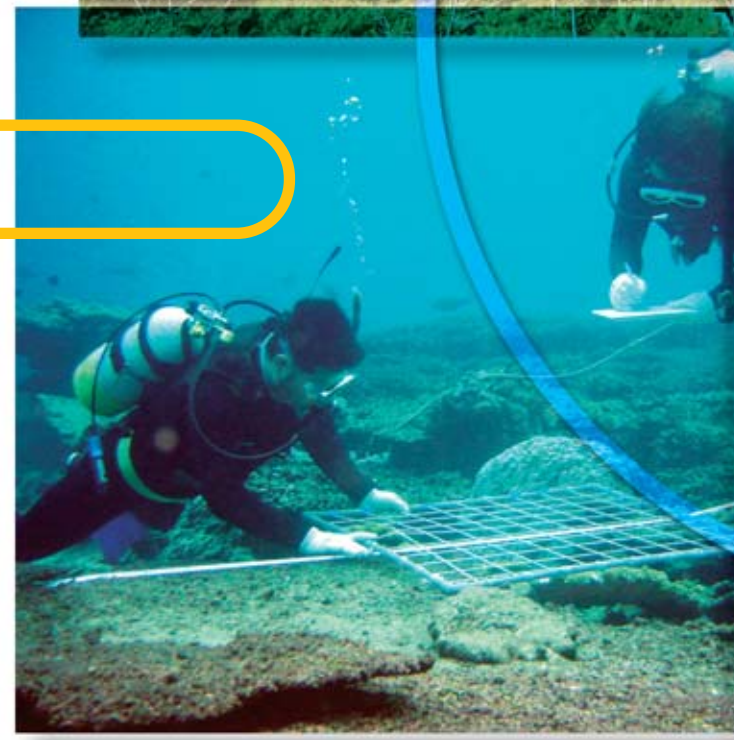
能力育成

地域ワークショップの開催や優良事例のとりまとめなどを通して保全・管理能力の強化を図っています。



研究・モニタリング

地球規模のサンゴ礁モニタリングネットワーク(GCRMN)やボランティアダイバーによるサンゴ礁モニタリング(リーフチェック)を通じ、世界のサンゴ礁の状況を調べ、その情報を発信しています。



活動の評価

ICRI総会やITMEMSで国際的なサンゴ礁保全の取り組みを評価・再検討しています。



日本の取り組み

日本は、設立当初からICRIに積極的に関わってきました。ICRIは地域レベルでの協力を重要視していることから、アジア・太平洋地域の活動拠点の一つとして、国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターを石垣市に設立(2000年5月)しました。また、アジア・オセアニア地域におけるサンゴ礁を含む海洋保護区のデータベースを作成しています(2005年~)。

